

平成 24 年度事業報告

横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター

横浜市内 17 館目のセンター及び法人が初めて鶴見区に開設した事業所である自覚を持ち、職員一丸となり良質な利用者サービスの提供、関係機関との有機的なネットワークの構築を意識して取り組んだ。また、地域での相談援助業務が初めての職員が多くいる中で、互いに成長できるよう定期的な勉強会を開催するなど人材育成方法を創意工夫した。

初年度と法改正における過渡期が重なり、慌ただししい 1 年ではあったが、利用者・家族・関係機関職員、そして自分たちと向き合いながら誰一人欠けることなく初年度の実践を行うことができた。

(ア) 生活支援センター本体事業

① 精神障害者の権利擁護及び日常生活における支援

【利用登録者数】

平成 24 年度（初年度） 487 名	本人登録		家族 55 名	関係機関 22 名
	男性	女性		
	254 名	156 名		

近隣区にある A 型生活支援センターと比較すると、駅からのアクセスも良く鶴見区内だけではなく、近隣区からの利用者も開所当初から多い。鶴見区の利用登録者の数は、322 名。鶴見区内の精神障害者数（手帳保持者）1,475 名（23 年度）である。センターに来られない方、情報を得られない方が存在していることが考えられる。関係機関との連携を強化し、アウトリーチ等の待つだけではなく、積極的な支援展開をより一層強化していくことが重要課題だと考えられる。

【相談対応別利用者数】

電話相談		面接		訪問・同行		生活場面面接 （受付やホールでの対応）	
男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
3,492	4,386	873	557	190	141	9,095	3,194
合計 7,878 名（延）		合計 1,430 名（延）		合計 331 名（延）		合計 12,289 名（延）	

電話相談に関しては、日に何度も電話をしてしまう電話依存の方が多く存在していることが判明。その方々は、電話をすることで閉居しがちとなり、月の電

話代も高く経済的負担に繋がっている。そうした方へは、訪問での面接を通して関係性構築を図った。訪問・同行は、ニーズも多く今後、対応数はさらに高まることが考えられる。

生活場面面接においては、他区の生活支援センターと比較しても多い結果となったが、これは、フリースペースに職員が定期的に出られるよう職員が互いに意識し、来所利用者との交流を図り信頼関係構築に努めてきた結果だと思われる。

【有料サービス利用者数】

夕食利用		入浴利用		洗濯利用		パソコン利用	
男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
5,150	1,126	757	108	110	150	312	53
合計 6,276 名 (延)		合計 865 名 (延)		合計 260 名 (延)		合計 365 名 (延)	

夕食利用は、1日平均にすると約18食。主な利用者層は、男性単身生活者であったが、次第に女性や家族での利用が増えてきている。入浴利用については、風呂なしアパートで生活する方が多く、ニーズは高い。

② 日常生活に関する情報及びレクリエーションの提供

【自主事業】

題名	参加人数
柴田ヒロキ氏アコースティックライブ	20名
第1回お茶会(担当:芳垣所長)	16名
もりきこアコースティックライブ	24名
第2回お茶会(ゲスト:鶴見区役所MSW)	14名
ボウリング大会	6名
第1回たこ焼きパーティー	20名
ジャグリング	6名
山下雄平氏アコースティックライブ	30名
七夕イベント	28名
第3回お茶会(ゲスト:鶴見区消防署予防課長)	7名
ミヤト氏アコースティックライブ	30名
カラオケ大会	9名
夏祭りイベント	133名
第4回お茶会(担当:松田副主任)	9名

第1回メイクボランティアの指導によるメイクアップ体験	8名
第2回たこ焼きパーティー	27名
漆崎信二氏ライブ	32名
おだんご作り	20名
第5回お茶会（ゲスト：リワーク経験者）	12名
第2回メイクアップボランティアの指導による体験	10名
オセロ大会	6名
ゆうま氏ライブ	21名
ハロウィンかぼちゃクッキー作り	14名
第3回メイクアップボランティアの指導による体験	11名
しもけんライブ	18名
第3回たこ焼きパーティー	24名
第6回お茶会（ゲスト：障害者雇用企業担当者）	8名
映画上映会	10名
相模の風THEめをとライブ	20名
第4回たこ焼きパーティー	18名
第7回お茶会（ゲスト：就労支援専門家）	8名
クリスマスイベント	36名
書初めイベント	9名
かるた大会	6名
第8回お茶会（ゲスト：シンガーソングライター）	11名
第4回メイクアップボランティアによるメイクアップ指導	11名
見学会（県障害者就労相談センター）	10名
田宮俊彦氏ギターライブ	20名
第5回たこ焼きパーティー	19名
第9回お茶会（ゲスト：ぱれっとの会事務局長野崎氏）	13名
紙芝居	15名
第5回メイクアップボランティアによるメイクアップ指導	7名
荒井りえ氏ライブ	18名
映画上映会2	5名
第6回たこ焼きパーティー	24名
第10回お茶会（ゲスト：ハローワーク川崎職員）	8名
書道イベント	11名
神川圭司氏ライブ	12名

第7回たこ焼きパーティー	14名
防災訓練	35名

【地域交流支援事業】

題名	参加人数
フェイシャルセラピスト協会との共催講演会「顔と心と体のつながり」	71名
第1回トールペイント教室	10名
苔玉作り	15名
第1回フェイシャルセラピスト協会による講演「小顔マッサージ」	17名
第2回トールペイント教室	10名
第1回ボイストレーニング	9名
クリスマスリース作り	14名
第2回フェイシャルセラピスト協会による講演会「きれいな肌づくり」	15名
第2回ボイストレーニング	8名
法テラス説明会	11名
バーチャルハルシエーション体験会	20名
第3回フェイシャルセラピスト協会による講演会「印象の変わる眉」	14名
彫金イベント	10名
大東コーポレート見学会	11名
第3回トールペイント	9名
中央・生麦・駒岡ケアプラザ合同「精神障害者生活支援センターを知ろう」	19名
区民利用施設施設長研修「精神障害について知ろう～障害特性と関わり～」	19名
倫理法人会モーニングセミナー「地域における精神障害者生活支援センターの役割」	12名
東寺尾ケアプラザ共催「生活支援センター見学会」	17名
潮田西武地区民児協施設見学会	6名
矢向地域ケアプラザ共催障害福祉講座「高齢者のうつ病を知ろう」	25名
寺尾ケアプラザ新人ケアマネジャー研修会	6名
東寺尾ケアプラザ共催「こころの病気とうまく付き合うために」	5名
寺尾地域ケアプラザ共催「ケアマネジャー合同連絡会」	17名
横浜当事者研究会共催「レッツ当事者研究 in横浜」	75名
東寺尾地域ケアプラザ共催「鶴見区生活支援センター見学会」	23名
潮田地区ケアマネジャー勉強会（居宅支援連絡会との共催）	15名

・自主事業 合計参加人数⇒903名

自主事業・地域交流支援事業ともに鶴見区生活支援センターの特色を出すべく「生活に潤いを」モットーに上記のイベントを企画してきた。1年間の中でたこ焼きパーティー、アコースティックライブなどのイベントが定着してきた実感がある。特にアコースティックライブでは、毎月違うアーティストの方を招き、生の歌声を届けてもらった。その集大成として、利用者を交えセンターの歌を作るプロジェクトも行い25年5月に行われるサルビアホールでのライブで発表する予定としている。

また、地域支援事業では、関係団体との連携強化を図るため、共催での活動を意識して精神保健に関する事と鶴見区生活支援センターの普及啓発活動を行った。

③ 利用者本人と家族の相互作用を意識した家族支援

利用者本人が元気になるためには、家族も元気である必要があるという家族関係の相互作用を意識し、家族支援に取り組んできた。個別の家族相談のみならず、鶴見区家族会「のぞみ」と連携し、バスハイクでの共同活動や定期的に行われる家族会の会合に職員が参加し、家族会との密接な関係を築いてきた。今では、毎月のように家族会がセンター内で打ち合わせをしたり、職員と意見交換を重ねている。

④ 地域への精神保健福祉に関する普及啓発活動及び関係機関とのネットワーク構築

初年度重点課題であり、鶴見区生活支援センターの開所周知や精神保健福祉に関する普及啓発活動を関係機関と連携しながら実施した。

【主な活動】

- ・地域ケアプラザとの共催勉強会（定期的に実施）
- ・鶴見区役所各課での勉強会における講演活動
- ・関係機関を巻き込み開所記念イベントを企画（参加者75名）
- ・区内地区センター所長会において講演
- ・鶴見区自立支援協議会において講演
- ・家族会の学習会において講演
- ・鶴見東ロータリークラブ会合において講演

⑤ ピア活動に繋がるような利用者の主体性を促す支援

利用者主体のグループ形成支援の一環として、毎月メンバーミーティングを実施。また、次第に女性利用者が増えてきたこともあり、女性の会を結成しグループ活動支援を行った。女性の会は、利用者に女子会「クレア」と名前を付

けて頂き、開催するごとに参加者も増えていった。

・メンバーミーティング⇒計 12 回実施 参加人数 72 名

・女子会「クレア」 ⇒計 6 回実施 参加人数 23 名

⑥ 安全管理について（事故報告・ヒヤリハット事例報告）

【事故報告】⇒全 4 件

発生日時	場 所	事故の種類	処理の経過及び再発防止対策等
6 月 15 日 16 時頃	センター建物前	車両物損事故	事業所車両発進時駐車場ポールと接触。所長、職員への連絡、車両修理。職員間での発進時の安全確認の徹底周知。
7 月 31 日 15 時頃	買い物代行先店舗前	車両物損事故	事業所車両発進時、電柱と接触。安全確認及び余裕を持った行動の心がけの徹底周知。
9 月 6 日 18 時頃	センター内男性浴室	人身事故	入浴後の清掃時に頭部を負傷。応急処置後、外科受診指導。原因となったタオルかけの角に緩衝材取り付け。
10 月 27 日 18 時頃	センター調理室	その他	炊飯スイッチ入れ忘れのため夕食提供時刻遅延。利用者に謝罪し、当日は副菜を増やして提供。調理担当間での確認の徹底周知。再発防止と共に事故を教訓とし代替食品を常備した。

【ヒヤリハット報告】⇒全 15 件

・調理室棚の鍵閉め忘れ	・夕食予約の受付表記入漏れ（2 件）
・センター車両のしまい忘れ	・夕食キャンセルのキャンセル料返金忘れ
・利用者ポットのお湯補充忘れ	・職員検食分の夕食注文忘れ
・勤務シフト調整ミスによる調理バイト不在日発生	
・閉館時のエアコン消し忘れ	・殺菌庫の鍵閉め忘れ（2 件）
・調理用食材の注文不足	・炊飯後の白米の放置
・調理器具・食器の破損の放置等	

事事故事例・ヒヤリハット事例について、安全対策委員会にて検討し、各業務に対する見直しを徹底強化。特に件数が多い調理関係のヒヤリハットにおいては、

担当職員によるマニュアル遵守の徹底、該当職員への個別面談等を実施した。防火管理簿の変更や職員間での確認作業のルール化などを行い再発防止に努めた。その結果、〇〇忘れなどの確認不足によるミスは減少した。

⑦ 自立支援協議会・会議等

鶴見区自立支援協議会は、今年度より本格的な組織化に向けて動き出しており、鶴見区生活支援センターからも所長、職員 1 名で毎月開催される運営会議に参加。その中で、組織化に向けた体制作りの提案を行い当センターから提案した組織体制案が採用されるなどの成果を挙げた。

外部会議においては、ネットワーク構築の機会とし積極的に参加し、事業計画の中でも重点目標としている関係機関との顔の見える関係構築において、精神保健福祉領域の関係職員に認識されるなど一定の成果を得られた。今後は、高齢や他障害分野の職員とも連携する機会は増えることが予想され、一層連携強化のための土台作りに努めていきたい。

自立支援協議会関連会議 参加回数⇒15回 外部会議 参加回数⇒112回

⑧ 人材育成について（外部・内部研修報告）

新卒含め相談援助業務未経験 7 名の状態で開所したこともあり、当初より職員研修に力を入れてきた。上半期は、指導担当職員を据え相談援助の基礎となる部分の指導を実施した。下半期からは、各職員が将来的にどこでも発表できるレベルを目指し、制度や病気のことなど各々がテーマを決め発表形式で毎月ミニ勉強会を行った。また、センター内研修では、元々のネットワークを活かしベテランPSWや自殺対策研究を行っていたPSWを講師に招き、地域関係機関にも声掛けし研修を実施した。また、外部研修にも積極的に参加し、スキルアップを図り、外部研修に出た職員が内部で伝達講習を行うことを徹底した。

【外部講師を招いた研修会】

- ・ NPO法人夢の木理事長 副島 喜美男氏
「夢の木の実践～人が人を支援すること～」
 - ・ 湘南東部総合病院 精神保健福祉士 平野 みぎわ氏
「自殺対策」「10年目を迎えた先輩女性ソーシャルワーカーの想い」
- 【内部研修】
- ・ ソーシャルワークの原則
 - ・ 事例検討会
 - ・ 生活保護制度について
 - ・ 強迫性障害について
 - ・ アウトリーチ支援
 - ・ 自殺予防
 - ・ 精神科薬について
 - ・ アルコール依存症について等
- 【外部研修】
- ・ 自殺予防、家族支援、計画相談、地域移行支援事業、うつ病各種病気の研修

内部研修実施回数⇒12回 外部研修合計参加回数⇒86回

⑨ 嘱託医相談

嘱託医	所属
川名明德 医師	メイトクリニック
野末浩之 医師	うしおだ診療所
日原信彦 医師	横浜ハビリテーションクリニック

相談回数⇒37回 男性⇒20名 女性⇒15名 家族⇒4名

主にセカンドオピニオン目的で利用する方が多くみられた。本人、家族にとって、普段の診察時間は限りがあるため、嘱託医相談の時間は利用者にとって有意義なものとなっている。

(イ) 自立生活アシスタント事業

初年度であるため、地域の関係機関に自立生活アシスタント事業を知って頂くことに重点を置き、地域に埋もれているケースを相談や依頼に繋がるように、ケアプラザ職員、介護支援専門員、民生委員の理解を深めるようにした。

また、自身の病気や障害により日常生活や社会生活に相当な制限を受けている単身者や、同居家族の高齢化・病気等で支援を受けられない方などを対象に、より身近な存在として丁寧に関係を作っていた。関係機関との連絡調整を行いながら個々の障害特性を踏まえ、初めての単身生活を希望する方への支援や住み慣れた地域での安定した生活が送れるよう支援を行った。

① 対象者

本人	家族	関係機関	その他
716名	68名	99名	1名

② 援助方法

面接（来所）	電話・メール・FAX	訪問	同行	その他
205名	686名	86名	24名	41名

③ 支援内容

心理情緒	医療健康	消費生活	就労	衣食住	対人	制度	アシスタント所属施設利用	関係機関との連携	余暇支援
350名	259名	216名	47名	244名	105名	32名	134名	84名	28名

※すべて延べ人数ではあるが、1人1日1集計

援者数⇒登録者数 8 名 未登録者数 25 名

(ウ) 横浜市地域移行・地域定着支援事業

概ね 1 年以上入院されている長期入院者を対象に支援展開。初年度は、鶴見西井病院、ワシン坂病院、N T T 関東病院と 3 つの病院に入院されている方を担当した。特に鶴見西井病院においては、病院 P S W と密な関係を構築し、生活モデルの視点で対象者を捉え、連携を図りながら支援を実施した。また、事業対象外になる入院者に対しても、センター業務に繋げ 2 名の退院調整に協力した。

本事業のもう一つの特徴である市内精神科病院への普及啓発活動においては、生活支援センター北部ブロック（緑区、港北区、神奈川区、鶴見区）で協議を重ね、病院訪問・市内病院説明会での共同発表などの協働活動を実施した。下半期に入り、国の地域移行支援事業への移行に伴う新システムの検討や書式改編などに対して、定例会において積極的に発言し、他区センターと連携を図りながら仕組み作りに尽力した。しかし、鶴見区生活支援センターとしては、病院側に提案はしていたものの院内での普及啓発活動は実施できなかった。年度末に病院のお花見イベントに参加するなど第一歩となる活動はできたので、より一層連携を強化し入院患者様、病院職員にとってより良い普及啓発活動へと展開していくことが次年度の課題である。

① 対象者

対象者入院医療機関	性別	年代	入院期間	転機
鶴見西井病院	男性	50 代	約 1 年	退院
鶴見西井病院	男性	50 代	約 3 年	入院中
ワシン坂病院	女性	60 代	約 3 年	入院中
N T T 関東病院	男性	60 代	1 年未満	退院

② 援助方法

電話	院外面接	院内面接	同行	訪問（本人）	訪問（本人以外）
145 回	4 回	22 回	22 回	12 回	1 回

③ 対象者経過及び会議等

- ・退院者 2 名⇒自立生活アシスタント事業・センター本体事業での支援に移行
- ・継続支援 2 名⇒家族・医療機関と連携を図りながら、継続支援中。
- ・定例会⇒11 回 北部ブロック会議・打ち合わせ等⇒7 回

(工) その他

① センター業務システム構築

既存の生活支援センターの登録・集計システムを見直し入力時間を有効な時間へと変換できるよう検討。登録データベースを新たに構築し、カード作成や日報入力等に要する時間を軽減し、利用者支援の時間を増やした。また、内部サーバー機能を活用し記録のデータ化、連絡事項の共有をパソコン上で行えるよう整備した。

② 苦情解決

苦情に関しては、初期消火の重要性を意識し対応。苦情解決責任者が対応する前の段階での対応で済んでいる。今年度の苦情件数は、0件である。

③ 横浜市生活支援センター連絡会における活動

生活支援センター連絡会においては、所長が副代表を務める。また今年度は、当センター及び中区が開所し全区に横浜市生活支援センターが開館した。センター連絡会は、法改正の過渡期とも重なり、様々な検討を横浜市健康福祉局、各区センターと重ねてきた。その中で、所長だけではなく各職員が業務見直しプロジェクト（集計の見直し、新月報作成等）や新人研修企画委員会などセンター連絡会活動に積極的に参加し、横浜市生活支援センター全体の動きに貢献した。

平成24年度
横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター決算書(合算)

施設名: 横浜市鶴見区精神障害者生活支援センター

運営法人: 社会福祉法人 横浜市社会事業協会

【決算額】

(単位: 円)

科目	予算額	決算額	差引増減	説明
人件費	56,014,000	51,671,870	4,342,130	人件費戻入額 (4,342,130円)
職員給与	42,889,000	38,608,607	4,280,393	所長1名 常勤職員5名 非常勤職員4名
賃金	4,880,000	4,519,935	360,065	アルバイト(調理): 1,449,120 臨時職員1名(無休化対応): 2,324,895 嘱託医: 745,920
共済費	8,245,000	8,543,328	-298,328	法定福利費: 5,625,033 退職給与引当金: 1,207,020 福利厚生費: 60,000 職員検診料: 151,275 労務管理費: 1,500,000
施設管理費	5,761,000	3,435,406	2,325,594	
光熱水費	2,821,000	1,767,511	1,053,489	電気代: 666,300 水道代: 220,419 ガス代: 880,792
庁舎管理・委託料	2,800,000	1,608,015	1,191,985	クリーンスタッフ委託料: 946,076、EV・自動ドア保守 336,778電気・消防設備点検: 91,728、コピー機保守: 105,858、室内空気環境測定: 127,575
修繕積立金	200,000	200,000	0	
利用者負担金 充当分	▲ 60,000	▲ 140,120	80,120	洗濯: 30,600 入浴: 90,500 インターネット: 19,020 光熱水費に充当
運営費	3,900,000	4,198,036	-298,036	
旅費	400,000	333,660	66,340	旅費交通費
消耗品費	555,000	978,384	-423,384	消耗品、防災備蓄品等
印刷製本費	200,000	20,790	179,210	記録用紙、名刺代
修繕費	100,000	497,335	-397,335	工事費、修繕費
通信運搬費	590,000	427,230	162,770	電話代、切手代等
賃借料	1,012,000	389,829	622,171	コピー機、車両リース料
備品等購入費	250,000	838,459	-588,459	備品購入、行事費等
保険料	290,000	190,230	99,770	総合保障保険
雑費	503,000	522,119	-19,119	会議費、諸会費、燃料費、その他
本部繰入金	400,000	400,000	0	
計	66,075,000	59,705,312	6,369,688	